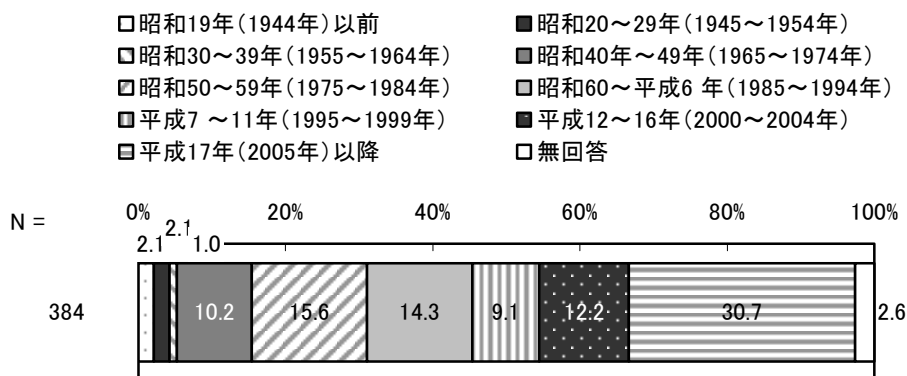


## 2 現在の住まいについて

問1 あなたは今のお住まいにいつ頃から住んでいらっしゃいますか。(○は1つ)

「平成17年(2005年)以降」が約3割

「平成17年(2005年)以降」の割合が30.7%と最も高く、次いで「昭和50～59年(1975～1984年)」の割合が15.6%、「昭和60～平成6年(1985～1994年)」の割合が14.3%となっています。

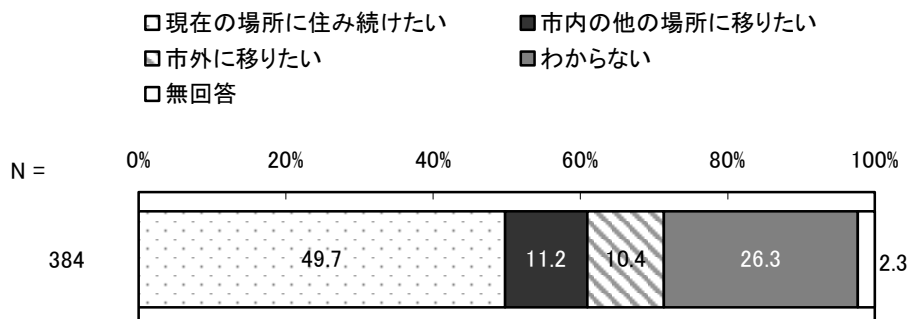


問2 これからも、現在の場所に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

「現在の場所に住み続けたい」が約5割

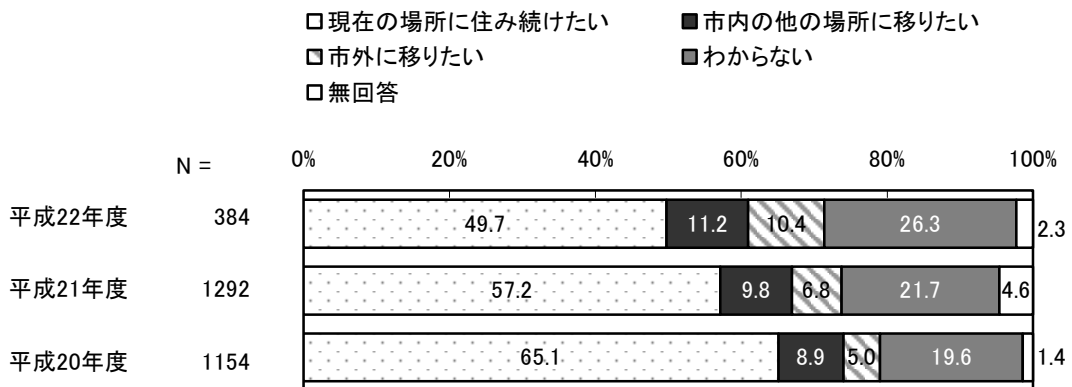
35～44歳、50歳以上で「現在の場所に住み続けたい」の割合が高い  
居住年数が長いほど「現在の場所に住み続けたい」の割合が高い

「現在の場所に住み続けたい」の割合が49.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が26.3%、「市内の他の場所に移りたい」の割合が11.2%となっています。



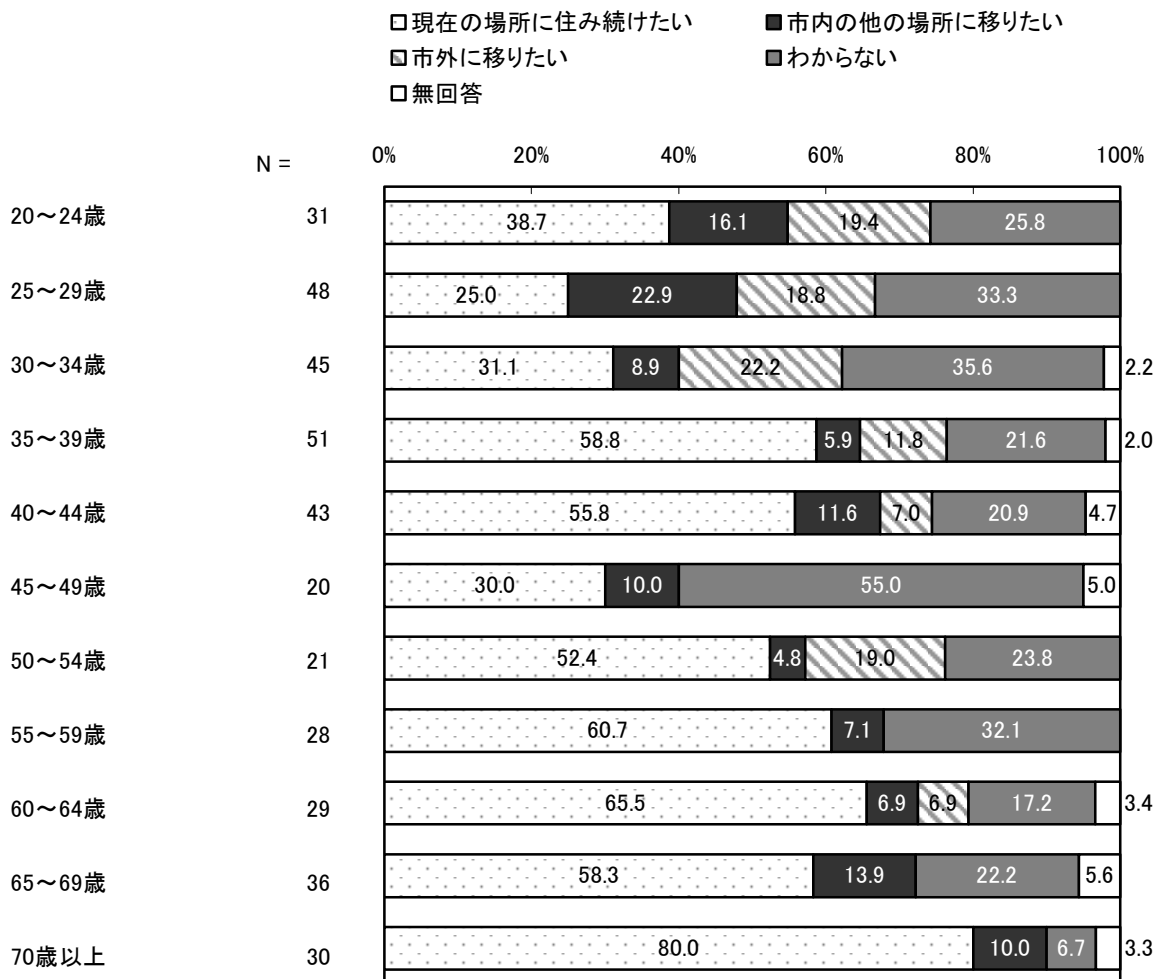
【経年比較】

平成 20 年度の調査から、「現在の場所に住み続けたい」の割合が徐々に低くなっています。



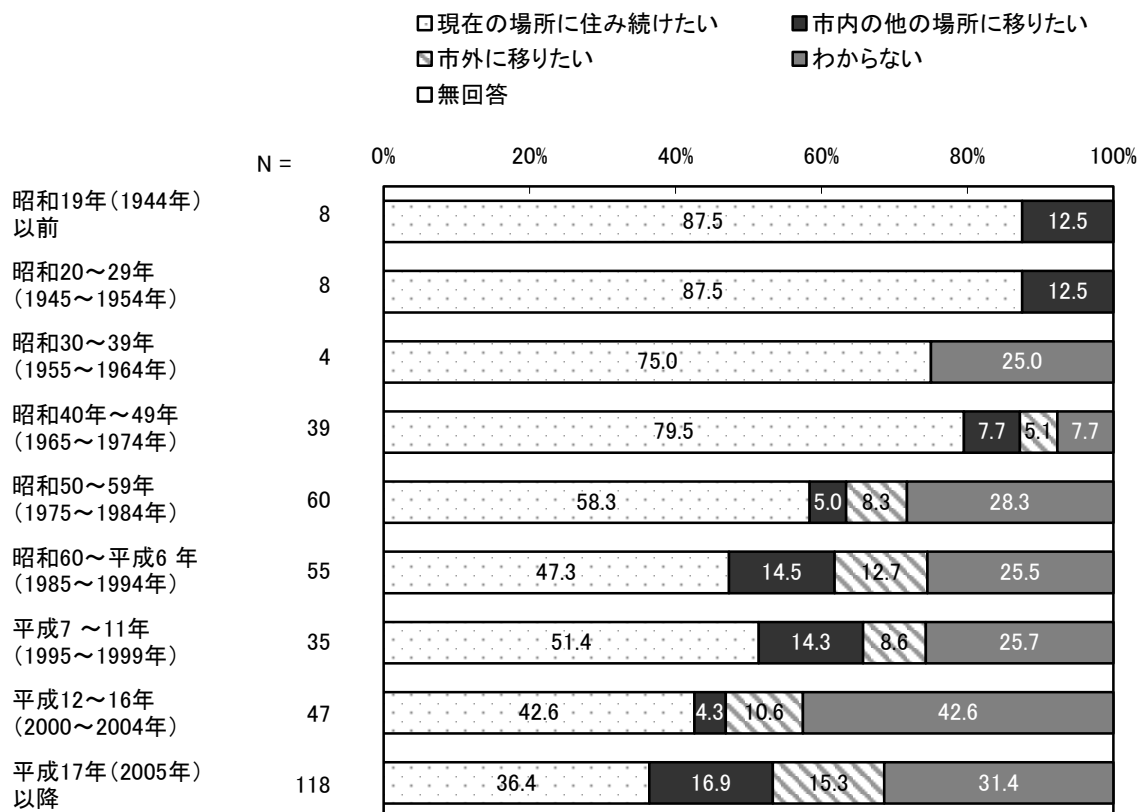
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、35～44 歳、50 歳以上で「現在の場所に住み続けたい」の割合が高く、特に 70 歳以上で 8 割となっています。一方、25～29 歳で「市内の他の場所に移りたい」の割合が高くなっています。



【今の住まいに居住し始めた時期別】

今の住まいに居住し始めた時期別でみると、居住年数が長いほど「現在の場所に住み続けたい」の割合が高くなる傾向がみられます。



## 【ライフステージ別】

ライフステージ別でみると、他に比べ、単身（65歳以上）、家族成長中期（第一子が中学生・高校生）、家族成長中期（65歳未満、第一子が学校卒業）で「現在の場所に住み続けたい」の割合が高く、7割を超えています。一方、夫婦のみ（40歳未満、夫婦のみ）、夫婦のみ（65歳以上、夫婦のみ）、家族形成期（第一子が未就学）、家族成長後期（第一子が専修・専門学校・短大・大学・大学院の教育期）で「市内の他の場所に移りたい」の割合が高くなっています。

